

資料1 今年度の検討会の進め方

今年度の検討会の進め方

平成26年度の検討会での整理

- 「長寿命化」を考えていく上では、施設が適切に管理されていることが重要であり、それを促す仕組みを整える必要がある。そのためにも、基礎となるデータを収集・分析することは重要であり、保全実態調査等の取組の強化を検討すべき。
- 「長寿命化」とは、物理的劣化を防ぐということもあるが、「使える」ということが非常に大事。また、施設管理者は専門家ではないことを踏まえて検討を進めるべき。
- まずは、収集したデータを分析し、そのうえで、今年度情報収集等を行った内容も踏まえて、どんなことができるのかを検討していけばよい。



平成26年度検討会での整理も踏まえ、以下の具体の課題について検討していきたい

平成27年度の検討会で検討していきたい内容

(1) 限られた予算の中で、効果的に保全を実施するための考え方

専門家ではない施設管理者が容易に保全手法を選択できるよう、中長期保全計画に組み入れるべき部位の抽出方法の検討

(2) 長寿命化に対応した保全手法・評価手法等の検討及び活用方策

① 長寿命化を図る施設における中長期保全計画策定の考え方

- ・物理的劣化を防ぐという観点以外に、「使える」状態を維持するという観点を踏まえた、中長期保全計画の策定手法の検討
- ・長時間使用の際に劣化が問題となる部位の点検方法の検討

② 長寿命化を図る既存官庁施設に対する評価手法

本日も意見をいただきたい内容

議事(2) 長寿命化に対応した中長期保全計画策定の考え方について

- 中長期保全計画に組み入れるべき部位の対象について【資料2-1】
- 部位を抽出する際の判断基準について【資料2-2】
 - ・施設の特性による定性的な評価手法(案)
 - ・コスト、リスクによる定量的な評価手法(案)
- 文献及び事例調査について【資料2-3】

議事(3) 長寿命化に対応した評価手法について

- 既存調査結果の活用について【資料3】
- 「長寿命化」という観点で、特に留意すべき部位及び把握しておくべき情報【資料3】

【参考】今後のスケジュール（イメージ）

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
本検討会			第3回(10/8)			第4回	とりまとめ	
長寿命化に対応した 中長期保全計画策定 の考え方等								
文献調査	文献の抽出	調査／調査結果の整理						
事例調査	ヒアリング調査		建物調査(10施設)					
データ分析及び 効果検証	分析内容の検討	シミュレーション	建築物の 部位の パターン整理	保全手法 分類表 の提示				
長寿命化に対応した 評価手法	分析内容の検討	検討会でのご指摘を踏まえた 追加調査						